

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装/不燃材料
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料
RM-9364	塗料塗装/難燃材料

1液水性反応硬化形鉄部・外壁兼用シリコン系塗料

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆



# 水性ファイブSi

現場で活躍する水性塗料のオールラウンダー  
建築鉄部は水性仕上げの時代に



1液水性反応硬化形鉄部・外壁兼用シリコン系塗料

ニッペ

# 水性ファインSi

## 平滑な仕上りと作業感 オールマイティな水性塗料



### 特長

ニッペ水性ファインSiは1液の水性塗料でありながら、レオロジーコントロールにより弱溶剤系塗料なみの平滑な仕上りと作業感を実現しました。建築鉄部から外壁まで、幅広い部位の仕上げに適用できます。

### ①水性鉄部塗装が可能

『1液水性デクロ』等の水性さび止め塗料との組合せにより、内外部での鉄部塗装が可能です。仕上り、防錆性能ともに当社弱溶剤系仕様と同等の性能を有しています。

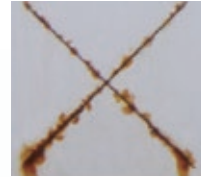
#### 【CCT200サイクルでの防錆性試験結果】

下塗り：当社弱溶剤1液エポキシ樹脂  
さび止め塗料

上塗り：当社弱溶剤1液シリコン樹脂系  
上塗り塗料



下塗り：1液水性デクロ  
上塗り：水性ファインSi



\*さび板素地に対し、それぞれを塗装しJIS K 5600 7-9サイクル腐食試験(サイクルD)を200サイクルで実施

### ②作業性・仕上り性

水性塗料でありながら、弱溶剤系塗料を塗装しているような作業感と仕上り性です。

#### 【刷毛から塗料を垂らした際のイメージ】



#### ◀従来水性塗料

エマルジョン樹脂の特性上マヨネーズのようなポツリとした粘性で粘り気が少ない



#### ◀水性ファインSi

レオロジーコントロールにより、粘りのある粘性としたことで、弱溶剤系塗料なみの作業感と平滑な仕上り性を実現

#### 【鉄扉面に塗装した際のイメージ】



#### ◀従来水性塗料

塗装後の塗料はフローしにくく、平滑面では仕上り肌に影響しやすい



#### ◀水性ファインSi

塗装後の塗料はフローし易いため、平滑面での仕上り性に優れ、弱溶剤系塗料に引けをとらない仕上り肌になります。

### ③耐候性・耐久性

シリコン樹脂を複合した最先端の1液水性反応硬化技術を用いることで、優れた耐候性・耐久性を実現しました。

### ④環境にやさしい

水性塗料ですので、環境にもやさしく、臭気対策が必要な箇所への施工に最適です。

### ⑤多用途

用途に適した下塗りを選択することで、鉄部、外壁などの新設・塗り替えに幅広くご使用いただけます。また、硬質塩ビ、FRPは研磨を実施することで、上塗りを直接塗装いただけます。

### ⑥低汚染性

塗膜表面を親水化していることで、外壁の汚染に対し、優れた効果を発揮することができます。

### ⑦防藻・防かび

藻・かびの発生を抑制する効果があり、美観を維持します。

## 用途

- 戸建て住宅・マンション・ビル・商業施設・工場・倉庫・学校・公共施設など、臭気対策が必要な内外部鉄面
- 外壁面の新設および改修塗装

## 適用下地

新設下地：鉄部、金属系素地、コンクリート、窯業サイディングボードなど

改修下地：上記各種素材面の各種旧塗膜面(\*)

各種下塗りを選定することで各種素材への適用が可能です。

(\*) 既存塗膜が合成樹脂調合ペイント、フタル酸樹脂エナメルの場合には、下地処理として、十分な研磨紙すりを実施してください。下地処理が不十分な場合には、塗膜はく離の原因となります。  
・既存塗膜が高弾性塗膜の場合には、適用できませんので、ご注意ください。

## 製品体系

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率(%)	使用量(kg/㎡/回)	塗装方法
ニッペ 水性ファインSi	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り	15kg・4kg	水道水	0~5	0.08~0.12	はけ ウールローラー

※上記の各数値は標準的な数値です。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

※上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

## 主な適用下塗り塗料

適用下塗り	鉄部・金属系下地面	外壁面(*)
	1液水性デクロ オーデハイポンプライマー 1液ハイボンファインデクロ パーフェクトプライマー他 当社水性錆止め塗料各種 当社弱溶剤系錆止め塗料各種	パーフェクトサーフ パーフェクトフィラー DANフィラーリフレックス アンダーフィラー弾性エクセル他 当社水性シーラー・溶剤系シーラー各種

(\*) DANフィラーエポ、DANタイル中塗等の弾性塗膜の上塗りとしては、適用できませんのでご注意ください。

## 乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
指触乾燥	40分	15分	10分
塗り重ね乾燥	6時間以上	3時間以上	3時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## 標準塗装仕様(塗り替え)

### ●一般鉄部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺も含めて入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて入念に除去し、清掃する。						
下塗り	1液水性デクロ	1	0.13~0.15	4時間以上7日以内	水道水	0~5	はけ・ウールローラー
上塗り	ニッペ 水性ファインSi	2	0.08~0.10	3時間以上	水道水	0~5	はけ・ウールローラー

(\*) 鉄骨階段路面や機械式駐車場バレット面など、塗膜に過度な衝撃が加わる部位への適用は避けてください。詳細については、最寄りの営業所にお問合せください。

### ●硬質塩ビ・FRP部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	サンドペーパーなどで目あらし実施し、粉じんを除去した清浄な面とする。						
上塗り	ニッペ 水性ファインSi	2	0.08~0.10	3時間以上	水道水	0~5	はけ・ウールローラー

### ●サイディングボード面(サイディングボード用フィラーを用いた仕様)

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含めて入念に除去する。ごみ、砂じん、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	ニッペ パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ・ウールローラー
上塗り	ニッペ 水性ファインSi	2	0.10~0.12	3時間以上	水道水	0~5	はけ・ウールローラー

### ●コンクリート、モルタル面(微弾性フィラーを用いた仕様)

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含めて入念に除去する。ごみ、砂じん、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	ニッペ パーフェクトフィラー	1	0.50~0.90	4時間以上	水道水	1~5	砂骨ローラー
上塗り	ニッペ 水性ファインSi	2	0.10~0.12	3時間以上	水道水	0~5	はけ・ウールローラー

\*ニッペ パーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が速まるような条件下では、希釈率を上限値付近で調整することをご推奨致します。

\*外壁面のアルミカーテンウォールや押出し成形板などの平滑(フラット)面へ施工の場合には、弱溶剤系塗料をお奨め致します。水性塗料で塗装の場合は、温度条件に伴う乾燥性に起因して塗り継ぎムラなどの仕上り不良に至る場合がありますのでご注意ください。

\*DANフィラーエポ、DANタイル中塗等の弾性塗膜の上塗りとしては、適用できませんのでご注意ください。

**施工上の注意事項** 詳細な内容については、各商品の製品使用説明書などにてご確認ください。

- ① 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が剥れていることがあります。そのまま塗装すると剥れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥れ、はく離が生じることがありますので、最寄りの営業所などにご相談ください。
- ② FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整(目粗し)を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
- ③ つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- ④ 過剰希釈をすと本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- ⑤ つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- ⑥ つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- ⑦ 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理してから塗装してください。
- ⑧ ぬえず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ⑨ 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、剥れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ⑩ 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- ⑪ 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- ⑫ 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- ⑬ 反応硬化タイプの塗料のため、使用後はけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まったら場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- ⑭ 動物のけは、はげが固まったりタマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- ⑮ 繊維壁、耐火被覆用け、酸カルシウム板、ロックウールなどの非常にせい弱な素材には塗装できません。
- ⑯ 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄面としてください。付着阻害をおそれがあります。
- ⑰ 内部塗り替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- ⑱ 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ⑲ 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
- ⑳ 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤剥れを生じさせることがあります。
- ㉑ シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ㉒ タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
- ㉓ 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科学社製HI500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- ㉔ 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ㉕ ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ フィン フィラー、ニッペ フィラー200)などで処理してください。(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください。)
- ㉖ 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ㉗ 素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
- ㉘ 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ㉙ 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- ㉚ カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- ㉛ 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ㉜ 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ㉝ 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ㉞ 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- ㉟ 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ㊱ シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ㊲ スチールドア枠回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑剤の移行などにより塗膜が軟化、はく離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
- ㊳ 薄めすぎは隠れい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ㊴ 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れない場合があるため、事前に試験施工塗り板などでご確認ください。
- ㊵ 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ㊶ 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- ㊷ 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ㊸ はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ㊹ ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ㊺ 塗装方法により色相が多少変化する場合があるので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ㊻ 汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ㊼ 塗装面以外に付着した場合は、乾燥するまでにラッカーシンナーまたは塗料用シンナーで洗い落としてください。
- ㊽ クロスの上の塗装は避けてください。
- ㊾ 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス(シリコン加工され水をかけると著しくはじくクロス)には塗装できません。塩ビクロスで可塑剤移行が考えられる場合は所定の仕様で塗装してください。
- ㊿ ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ① 可塑剤が多く含まれる塩ビ鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- ② 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ③ 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ④ 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ⑤ 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
- ⑥ 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ⑦ 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

**安全衛生上の注意事項(ニッペ 水性ファインSi ホワイト)**

**横倒禁止**

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本来の用途以外に使用しないでください。</li> <li>2. 取扱い後は、手洗いおよびうがいを行ってください。</li> <li>3. 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。</li> <li>4. 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用してください。</li> <li>5. 口をすずいでください。</li> <li>6. 容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理してください。</li> <li>7. 吸入した場合: 気分が悪い時は、医師に連絡してください。</li> <li>8. 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。</li> <li>9. 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>10. 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けてください。</li> <li>11. 旋錠して保管してください。</li> <li>12. 直射日光や水濡れは厳禁です。</li> <li>13. 塗料等の缶の積み重ねは3段階までとしてください。</li> <li>14. 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上(スプレー缶の場合は40℃以上)の温度にばく露しないでください。</li> <li>15. 内容物/容器を国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。</li> <li>16. 容器はつり上げないでください。やむを得ずつり上げると</li> </ol> | <p>きは適切なりついで、垂直に持ち上げ、十分に注意してください。(偏荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。)</p> <p>※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。</p> <p>■詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。</p> <p>■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。</p> |
|---|---|--|

警告		危険有害性情報	強い眼刺激 / 水生生物に有害
----	--	---------	-----------------

**日本ペイント株式会社**

お客さまセンター  
☎ 03-3740-1120  
☎ 06-6455-9113

<http://www.nipponpaint.co.jp/>

●このカタログは再生紙を使用しています。

●本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。  
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社、その他の会社の日本およびその他の国の登録商標または商標です。  
●©Copyright 2016 NIPPON PAINT Co., Ltd All rights reserved.

カタログNo.  
**NP-U076**

AA161010T  
2016年10月現在